

# BRICS パートナー国の投票行動

オレグ・バラバノフ

ヴァルダイ 2025年1月2日

<https://valdaiclub.com/a/highlights/political-positions-brics-partner-countries/>

**BRICS パートナーに招待された各国の外交政策選好を評価するには、国連総会での投票結果を見るのが興味深い。その結果を絶対視すべきではないことはもちろんで、国家の実際の政治的実践は投票結果に限定されず、投票結果によって決定されるものでもない。しかし、これらの投票は象徴的なものとして非常に重要である。**

カザンで開催された 2024 年 BRICS 首脳会議は、BRICS の拡大後初の首脳会議であった。サミットとサミットの間、多くの国が BRICS への関心とグループへの参加の意向を表明した。そのため、カザンの首脳会談の前に、BRICS の拡大に関する話題が一般メディアを賑わせた。同時に、カザンでの会議の前に、ロシアを含む多くの BRICS 加盟国の公式代表は、現段階ではこれ以上の拡大は見送ることを決定したとの声明を発表した。その結果、カザンでのサミットでは、BRICS が BRICS パートナー国の輪を形成し、多くの国に参加の招待状を送ることが発表された。

そのリストは公式には公表されなかったが、サミットの直後、BRICS のパートナーになるための招待状が 13 カ国に送られた可能性があるという情報がメディアに流れた： アルジェリア、ベラルーシ、ボリビア、ベトナム、インドネシア、カザフスタン、キューバ、マレーシア、ナイジェリア、タイ、トルコ、ウガンダ、ウズベキスタンである。

2024年12月末、ユーリ・ウシャコフ・ロシア大統領補佐官は、BRICSパートナーへの招待が9カ国の首脳によって受け入れられたと述べた：ベラルーシ、ボリビア、インドネシア、カザフスタン、キューバ、マレーシア、タイ、ウガンダ、ウズベキスタンである。これらはすべて、サミット直後に発表された非公式リストに含まれている。このリストの4カ国（アルジェリア、ベトナム、ナイジェリア、トルコ）は、今回の公式確認には含まれていない。また12月末には、ブラジル（2025年のBRICS議長国）の代表が、BRICSパートナーの最終リストは2025年初めに正式に発表されると述べた。

潜在的なBRICSパートナーの外交政策選好を評価するには、国連総会での投票結果を見るのが興味深い。その結果を絶対視すべきではないことは明らかであり、国家の実際の政治的実践は投票結果に限定されず、投票結果によって決まるものでもない。しかし、これらの投票は象徴的にも非常に重要である。先に、国連総会における「新旧」BRICS加盟国間の投票の慣行をすでに取り上げた。

2022年から24年にかけて、国連総会は2つのBRICS加盟国-ロシアとイラン-に対する決議を採択した。潜在的なパートナー国がそれらにどう投票したかを見てみよう。

2022年から24年にかけて、ロシアに関する以下の決議が採択された。

第11回国連総会緊急特別総会にて：

- 2022年3月2日のES-11/1。紛争開始後初の決議。ロシア連邦の行動を「ウクライナへの侵略」と位置づける；
- 2022年3月24日付ES-11/2。紛争の人的影響
- <2022年4月7日のES-11/3。国連人権理事会におけるロシア連邦の加盟停止；
- 2022年10月12日のES-11/4。ウクライナの領土保全（ロシア連邦への4つの新自治体の加盟に関する住民投票後）；
- 2022年11月14日のES-11/5。ウクライナへの損害補償と賠償；
- 2023年2月23日のES-11/6。ウクライナにおける包括的、公正かつ恒久的な平和の達成の基礎となる国連憲章の原則。紛争記念日に採択。

これらに加え、国連総会の通常総会では以下の決議が採択された：

- クリミアと新領土における人権について： 77/229 2022年12月15日、2022年12月15日、2023年12月19日の78/221、2024年12月17日の79/184；
- ザポリツィヤ原子力発電所：2024年7月11日の78/316。

	ES-11/1	ES-11/2	ES-11/3	ES-11/4	ES-11/5	ES-11/6
Algeria	abst.	abst.	against	abst.	abst.	abst.
Belarus	against	against	against	against	against	against
Bolivia	abst.	abst.	against	abst.	abst.	abst.
Vietnam	abst.	abst.	against	abst.	abst.	abst.
Indonesia	for	for	abst.	for	abst.	for
Kazakhstan	abst.	abst.	against	abst.	abst.	abst.
Cuba	abst.	abst.	against	abst.	against	abst.
Malaysia	for	for	abst.	for	abst.	for
Nigeria	for	for	abst.	for	abst.	for
Thailand	for	for	abst.	abst.	abst.	for
Turkey	for	for	for	for	for	for
Uganda	abst.	abst.	abst.	abst.	abst.	abst.
Uzbekistan	no vote	abst.	against	abst.	abst.	abst.

	77/229	78/221	78/316	79/184	total
Algeria	abst.	abst.	abst.	abst.	against: 1
Belarus	against	against	against	against	against: 10
Bolivia	abst.	abst.	abst.	abst.	against: 1
Vietnam	abst.	abst.	abst.	abst.	against: 1
Indonesia	abst.	abst.	abst.	abst.	for: 4
Kazakhstan	against	no vote	abst.	abst.	against: 2
Cuba	against	against	against	against	against: 6
Malaysia	abst.	abst.	abst.	abst.	for: 4
Nigeria	abst.	abst.	abst.	abst.	for: 4
Thailand	abst.	abst.	abst.	abst.	for: 3
Turkey	for	for	for	for	for: 10
Uganda	abst.	abst.	abst.	abst.	0
Uzbekistan	no vote	no vote	abst.	no vote	against: 1

イランについては、1985年以来、国連総会はほぼ毎年、この国の人権に関する決議を採択している。過去3年間では、以下の決議が採択されている：2022年12月の77/228、2023年12月19日の78/220、2024年12月17日の79/183である。

	77/228	78/220	79/183	Total
Algeria	abst.	against	against	against: 2
Belarus	against	against	against	against: 3
Bolivia	against	against	against	against: 3
Vietnam	against	against	against	against: 3
Indonesia	against	against	against	against: 3
Kazakhstan	against	no vote	no vote	against: 1
Cuba	against	against	against	against: 3
Malaysia	abst.	abst.	abst.	0
Nigeria	abst.	abst.	no vote	0
Thailand	abst.	abst.	abst.	0
Turkey	no vote	no vote	no vote	0
Uganda	abst.	abst.	abst.	0
Uzbekistan	against	against	against	against: 3

ここにロシアに対するアプローチの十分な違いが見られる。ロシアを支持しているのは、まずベラルーシとキューバの2カ国である。ベラルーシとキューバだ。それから、ほとんどの場合は棄権するが、時にはロシアを支持する国もある。アルジェリア、ボリビア、ベトナム、カザフスタン、ウズベキスタンだ。ウガンダは常に棄権している。次のグループは、約3分の1のケースでロシアに反対している。インドネシア、マレーシア、ナイジェリア、タイである。トルコはここで際立っており、10の反ロシア決議にすべて賛成票を投じた。しかもトルコは、BRICSのパートナーとして招かれた後、この決議に賛成した唯一の国である。

イランについては事情が異なる。その支持率はより高い。2022年から24年の同時期に反イラン決議に賛成した国は13カ国中1カ国もなかった。6カ国は常にイランを支持している（ベラルーシ、ボリビア、ベトナム、キューバ、インドネシア、ウズベキスタン）。2カ国（アルジェリア、カザフスタン）はイラン支持か棄権。5カ国（マレーシア、ナイジェリア、タイ、トルコ、ウガンダ）は常に棄権または投票しなかった。この状況は、BRICS加盟国によるこれらの決議案の採決結果と十分な相関関係がある。反ロシア決議に関しては、アプローチにも違いがあった。また、イランに関しては、「旧来の」BRICSメンバーの側で、イランに対するより公然たる連帯が見られた。しかし、繰り返しになるが、BRICS首脳会議の宣言によれば、BRICSは戦略的パートナーシップであると定義されている。

筆者は、ロシアの代表的シンクタンク「バルダイ・グループ」のプログラム・ディレクター

【翻訳チェック 田中靖宏】